

# 2年ぶりに2度目のV

## 2位に7打差の圧勝劇

## 唯一人のアンダーパー

《第54回九州女子選手権競技》

通算2アンダー 214

福岡・沖学園高3年 藤本愛菜(ミッションバレー)



【写真は優勝した藤本愛菜(右)と4年連続2位の荒木優奈(左)】

最終日はコース上を強風が吹き荒れた。平均風速10m前後。気温も20度近くになったとは言え、体感温度は低かった。冬支度で取材をするマスコミも見ら

れたほどだ。そんな悪条件の中でも藤本は耐え、自分のゴルフを見失わずに最終日をノーバーディーながらも6ボギーの78。2位に7打差の唯一人アンダーパーとなる通算2アンダー214で終えた。

「風が強かったので、とにかく耐えようと思ってスタートした。1バーディー、4ボギーの75くらいを考えていたけど。バーディーなしなんて久しぶり。でも、大きな大会で優勝したのは自信になる。優勝の味？ 前回と変わりません」

淡々と応える姿は2年前の初優勝と異なり、風格さえ感じさせる。結果的にはともにベストスコアとなった初日67、2日目69の貯金が大きかったのだが、最終日も強さを発揮した。

3、5番でボギーを叩いて迎えた6番ミドルの第2打をアゴの高いバンカーに入れた。続く7番ミドルでもセカンドがバンカーにつかまった。これらを藤本は1m以内に寄せてパー。8、9番でも1パットパーでしのいだ。連続ボギーの可能性もあり、流れが変わる要素を含んだ4ホールを藤本は支配した。「バンカーは得意なんです。将来に備えて、この1カ月間、グリーン周りの練習をみっちりやったけど、その成果が出ました」と笑みを浮かべた。

「将来に備えて」と言えば、1年ほど前から藤本は上田桃子や吉田優利らのプロゴルファーが師事する辻村明志コーチに指導を受けている。今大会の前週5月10～12日に行われた「RKB×三井松島レディス」(福岡CC和白コース)に出場。予選落ちしたものの、初日は69をマークして首位から2打差の9位タイと健闘した。その時、辻村コーチは藤本のキャディーについた。コース上の実戦は藤本に大きなプラスをもたらしたようだ。「コースマネジメントや攻め方、パッティングのイメージ作り方などすごく勉強になっている。これまでは漠然とパットやショットをしていたけど。今日も風を計算してプレーしました。誰よりも球をイメージできている」と”辻村効果”を強調した。



今月下旬には米国フロリダ州で開催されるジュニアの大会に出場する。「アメリカは初めて。買い物が好きなので、向こうのスーパーに行って、お菓子やフルーツを買いたい」と遠征を楽しみにする。来月には昨年2位タイに終わった日本女子アマチュア選手権(千葉・我孫子GC)が待つ。「去年は優勝争いをして2位。今年は優勝するように頑張りたい」と去年の雪辱を誓った。今年の最終目標はプロテストでの一発合格。実りの秋を迎えるためにも、高校生活最後の1年は藤本にとって大事な年となる。

○…通算5オーバー221。またしても2位である。これで4年連続。「みんな

なに言われています。昨日（スコアを）伸ばせなかったのも、記録的には面白いんじゃないですか。それはそれで」と荒木優奈（グリーンランドリゾート）は苦笑いした。強風の最終日は2バーディー、7ボギー、1ダブルボギーの79。「ありえない風。めちゃくちゃで。風に持っていかれた」と苦しいラウンドを振り返った。昨年プロテストは体調不良もあって不合格。「今年こそ受かってプロになります」と意気込む。その前の日本女子アマチュア選手権。「優勝したら（プロテストは）ファイナルからになるので優勝を狙います」とV宣言した。

### 《門司GC》



